

## 三井 E&S グループ事業再生計画

株式会社三井 E&S ホールディングス（社長：岡 良一）は、「三井 E&S グループ事業再生計画」を策定しました。

### 1. はじめに

当社グループは、エンジニアリング事業の海外大型 EPC プロジェクトの損失により、財務基盤を大きく毀損していることから、この回復が急務であると認識しております。また、造船事業やエンジニアリング事業など既存事業の収益も悪化しており、不採算事業からの撤退や新たな収益の柱となる成長事業の育成が必要です。

このような状況のもと、当社グループは、ステークホルダーの皆様の信頼回復に向け「三井 E&S グループ事業再生計画」を定めました。

「財務・収益体質の強化施策」と「事業構造の変革に関する施策」からなるもので、総力を挙げて取り組んでまいります。

#### ■「三井 E&S グループ 事業再生計画」の概要

##### (1)財務体質および収益体質の強化

- 資産の売却
- 固定費の削減（人件費・経費等）

##### (2)事業構造の変革

- 不採算事業の整理、撤退
- 成長事業へのリソース集中

### 2. 財務体質および収益体質の強化

毀損した自己資本の回復に向け、資産の売却、固定費の圧縮および資本対策についても検討してまいります。また、不採算事業の整理・撤退により利益率の改善を進め、さらに事業構造の変革を推し進めることにより、財務体質および収益体質の強化を図ります。

### 3.経営数値目標（2023年3月期）

	連 結	
売上高 経常利益率	6,500 億円	4%
総資産回転率	0.8 倍	
有利子負債 EBITDA 倍率	5 倍	

#### 4. 不採算事業の整理、撤退

エンジニアリング事業は、事業会社と子会社に分散した化学プラント・環境リサイクルのリソースを集約し、技術力の融合・強化を図ります。

また、火力発電土木事業は、既受注工事完遂に注力するためのエンジニアリング事業会社社長直轄体制を敷き、総力を結集します。新規受注は行わず、完工後は、本事業からは撤退します。

造船事業は、千葉工場の商船新造事業を縮小し、エネルギーエンジニアリングおよび大型鋼構造物の事業に注力する体制に変換していきます。

#### 5. 成長事業へのリソース集中

事業領域は「MES Group 2025 Vision」の「環境・エネルギー」、「海上物流・輸送」、「社会・産業インフラ」の3領域を踏襲いたしますが、機械事業・海洋事業および発電事業を注力事業と位置付け、グループ内の連携を強化し、リソースを集中させていきます。

一方、造船事業・社会インフラ事業は、グループ外企業との協業・提携により、さらなる成長を目指すこととしております。

2022年度までにこれらの新事業体制の構築を目指します。

##### ①機械事業の製品ラインナップ拡充

品質・価格競争力・ネットワークを強みに、船用・産業用機械を軸に製品ラインナップを拡充し、グループ全体の Lifecycle Solution Service (LSS) 事業を強化いたします。

##### ②発電事業の再編

発電事業は、デンマーク子会社の Burmeister & Wain Scandinavian Contractor A/S(BWSC)を中心に展開します。

その為、エンジニアリング事業会社のバイオマス発電事業は、BWSC およびその日本国内子会社の BWSC Japan Ltd.に集約し、将来的には東南アジアへ市場を広げます。

##### ③造船事業の再編

エネルギーエンジニアリング事業(海洋 FPSO・ガスビジネス等)を推進するための新組織を設立します。また、造船事業は、グループ外企業と協業を進め、競争力強化を図ります。

##### ④社会インフラ事業再編

子会社の三井 E&S 鉄構エンジニアリングを中心に、社会インフラ事業のリソースを集約し、風力発電設備や橋梁等を対象とした新インフラ会社を設立します。

グループ外企業との協業により、規模の拡大を図っていきます。

## 6. エンジニアリング事業の特別体制構築

火力発電土木事業の既受注工事を確実に完遂するために、化学プラント・環境リサイクル・再生可能エネルギー事業といった、エンジニアリング事業会社の他事業は、全てグループ内企業に事業移管し、エンジニアリング事業会社自体は、子会社の運営(グループ外企業との協業含む)と、既受注工事の完遂に注力する体制とします。

そして、既受注工事完工後は、火力発電土木事業からは撤退いたしますが、そのリソースは成長が見込める再生可能エネルギー事業や社会インフラ事業に再配置していきます。

当社グループは大型損失や市況低迷の厳しい状況におかれています。だからこそ大きな変革期と位置づけ、財務体質と収益体質を強化し、再生を図っていきます。

2019年度からの4年間を、事業基盤を再構築し、飛躍に向かい力を溜める期間と位置付け、逆風に強い経営体質を構築していきます。

[ お問い合わせ先 ]

株式会社三井 E&S ホールディングス 経営企画部 広報室  
高岡 電話：03-3544-3147